

【表紙】

五作ぢいさん 全四巻

【表紙 裏】

【1頁】

(十六ミリ)

五作ぢいさん

全四巻 四参九米

台湾総督府

N第八九四号

検閲済

有効期間

自昭和十五年四月十六日

至昭和十八年四月十五日

活動写真「フィルム」検閲規則第十条第二項ニ依リ手数料ヲ免除ス

障害ナシ

【2頁】

【3頁】

教育映画

五作ぢいさん 全四巻

提供 奥商会映画部

【4頁】

便概

七十を越した高齢の五作ぢいさんは□□の松太郎の病気の薬代や嫁や孫達の生活費に藁を打ち藁を作つてはその日を細々と暮らしてゐた。

秋のある日 柿の実の落ちると一緒に松太郎は死んで行つた。極□の悲しみのあとに老齢に鞭打つた五作は遂に病の床に就いた。その為に五作一家は益々赤貧洗ふ状態となつた。

こうした苦しむ五作一家は医者□□□の人達は総動員して小作田の植付は見事終了された。 小家を得た五作は□税□□の無いのを気にして□場へ□□してはゐないかと問合わせに出かけた。

役場では村長や収入役が□□□きの五作の小家へ□□□係と話して聞かせたが村に居て□年が狭いからせめて税金だけは納めさせてくれと嘆願した。

一同は感に打たれてそういふ人は国の宝だ。では来年分から納めて頂きたひといふ村長の言葉に五作はよろこんだ。そして幾日かの後 今日には年に一度の□□の祭り□年□□を打ち出す太鼓の音は□□の五作の頬に紅をきたした。 完

【5頁】

字幕

1. 南旺映画株式会社制作

2. 小学国語読本 巻七

3. 五作ぢいさん

奥商會教育映画部 提供

4. 原作 尋常小学読本 巻七

第十八・五作ぢいさんより

監督 徳光春夫

撮影 高井四郎

5. 出演者

五作 横山運平

民江 片桐日名子

おいさ 河田京子

A お客さん、行くものついて来い B 民さん、どうして行かないの

6. C “あたし 帰らないと—”

7. “いゝぢやないの—お祭だから”

【6頁】

8. “でも—”

9. “何してんだい 早く行かうよ”

10. “やあ—五作さん□が出るの”

11. “これは—収入役さん”

12. “今日はお□□の□□□□だことだ—

ときに松つあんのおんばいはどうだね“

13. “何故かはなごましくないので□つてゐます“

- 1 4. “ やいやい——ないた しつかり養生して早くよくなつてもらはないと——”
- 1 5. “ 有難うございます”
- 1 6. “ おいさ——”
- 1 7. “ まあ 起きたりなんやして——また熱が出ますよ”
- 1 8. “ すまんなあ お前やお父つあんに苦勞をかけて——”
- 1 9. “ 僕の事はい——からお父つあんを呼びに行つてくれ お祭にまでとしよりを働かせては罰があたるでなあ”

【7頁】

- 2 0. “ 只今 お母さん お茶”
- 2 1. “ ご苦勞さま それからおぢいさんを迎ひに行つてね”
- 2 2. “ お祭だといふに 民江に着物の一枚も買つてやれなかつたなあ”
- 2 3. “ おぢいちゃん——”
- 2 4. “ お、民江か”
- 2 5. “ おぢいちゃん お迎ひに来たの”
- 2 6. “ おぢいちゃん——はい”
- 2 7. “ 有難う”
- 2 8. “ 民江 お前はよくいふ事をきいてくれるから今日はお宮へ行つて何か買つてやらうかな”
- 2 9. “ うれしい あたし風船がほしいわ”
- 3 0. “ 民江 一寸待つといで”
- 3 1. “ なあに——”

【8頁】

- 3 2. “ 時計がよごれてゐるから——”
- 3 3. “ こんなによごれてゐては時間がよみにく——て村の人が困るだらうから”
- 3 3. “ おーい 五作さん”
- 3 4. “ 大変だ、松つあんの容態が急に変わったんだよ”
- 3 5. “ なに 松の——”

第一卷 終

第二卷

1. 働き盛りの松太郎の死んだ後は——
2. “ 民江 お父つあんにこれをお供へしておくれ”
3. “ さあ おぢいさん 御飯にしませう”
4. “ あつ おぢいさん”

5. “危い 何うしました”
6. “なに心配はいらぬ 元気なもんぢや”
7. “今日も無事に御飯が頂けます 有難うございます”
8. (画中文字) セイキン入
9. “民江 雨が降るから表へ出られなくて退屈ぢやなあ”
10. “今日は何のおかずじやらう”
11. “これは なかゝうまい”
12. “あゝ忘れたわ おぢいちゃん今日学校の帰りに藤助のおぢいちゃんが歌を一つこしらへてお呉れつて”
13. “ほうそうか—ぢやまた一きばりするとしよう”
14. “やがて—”
15. “お—生祇に出来ましたなあ—”
16. “僕はこれから藤助さんの所へとどけてくるから”
17. “でももう遅いから明日の事にしたら”
18. “何にちよつくら一走りだで”
19. “そんなら—帰り途は夜だで 着物着てお行きなさい”
20. “おい 何うしたゝ しつかりしろ”

【9頁】

21. “五作さんぢやないか おいしつかりしろ 大丈夫か”
22. “それから五作ぢいさんもうゝ床についてしまった
(画中文字) セイキン入
23. “神さま おぢいちゃんの病気を早くなほして下さい”
24. “民江ちゃん”
25. “おぢいちゃんの病気は何うだね 少しは良いのかね”
26. “いけないね、さあ学校が遅くなるから早く行きなさい”
27. “さあ おかはりをして下さい”
28. “いや もう 結構”
29. “でも それ位では—”
30. “もう 沢山”
31. “さつき民江がお米がどうかいつてゐたがもしやお米がなくなつてんじやないかい”
32. “いゝえ お米なら沢山あるんですよ そんな心配せんでもいゝのですよ”

【10頁】

34. “民江にやるだけ 不自由をさせんようにしてやつてお呉れ”

35. “はい”

第二卷 終

第三卷

1. “―なるほど”
2. “全く気の毒ですよ 小野さん何とかしてやれぬものでせうか”
3. “実は役場の方でもその事については色々考へてあるんですがねえ”
4. “何でもまだ□ら種時も出来てゐないんだそうで”
5. “村でも評判の正直な一家だけに一日も早く何とかしてやりたいと思つてゐますよ”
6. “せめて畑の手入れだけでも何とかしてやれんものでせうか”
7. “うーむ 何とかしてあげなくちや”
8. “砂田さん その事なら私達で何とかしませう”
9. “えッ 榎本さんが―”
10. “えゝ青年団の方でよろこんでやらせて頂きます 困つてゐる人があるときいて

【11頁】

11. “どうして私達が知らん顔をしてゐられませう”
12. “いや 有難う そう願へればこんな結構な事はありません”
13. “どうかよろしく願ひしますよ”
14. “―という様な訳ですからこれから不幸な五作さん一家の為に勤勞奉仕をやつていたゞきたいと思ふのであります”
15. “おぢいちやん 早く早く―”
16. “これは 〃 皆さん 有難う御座います”
17. “かくて―何時の間にか夏が来た”
18. “おぢいちやん 暑いのによく精が出るね”
19. “これは 〃 駐在所の旦那様 お暑いことで―”
20. “只今 おぢいちやん申上をもらつたの”
21. “おう 〃 こりや良く出来てる”
22. “いゝ□□やなあ”
23. “これもみんな村の方々のお陰です”

【12頁】

24. “そうだとも 〃 有難いことじや 〃”
25. “ときにまだお役場から税金の通知が来ないやうだな”
26. “はいまだ 来とりません”
27. “どうしたもんじやらうなあ”
28. “しかしおかしい事があるもんじやのう 毎年今頃はきつと税金をするのに―”

28. “後でついでがありますから私が行つて聞いて来ませうか”
29. “いや 農が行つて来よう”
30. “でも そのからだでは—”
31. “何 大丈夫だよ此の前の前のお礼もあるしそれに税金は大切な事ぢやで—”
32. “おぢいちやん つれていつてほしいわ”
33. “いや ー 今日はいけないまたつれてつてやるからな”
34. “おや 気をつけて行つていらつしやい”

第三卷 終

【13頁】

第四卷

1. “今晚役場の集合室を拝借出来ませんか”
2. “どうぞお使な—しかし何か問題でも—”
3. “実は村外れの休閒地の問題の件で 皆に会合したいと思ひまして”
4. “それは ー 結構な事で—どうぞお使ひ下さい”
5. “ではよろしく願ひします”
6. “今日は”
7. “やあ 五作さん もう体の方は良いですか”
8. “お蔭様ですつかり良くなりました”
9. “そりや結構だ”
10. “へえ—収入役さん今日は”
11. “やあ これや五作さんからだはもうすつかりよろしいかね”
12. “お蔭様でもうすつかり歩けるようになりました”
13. “そりやよかつた で今日は何か用ですかね”

【14頁】

14. “その事で実はまだ税金の通知が来て居りませんのでひよつとしたら役場の方でお忘れになつたのではないかと思ひまして”
15. “あゝその事かね その事なら心配はいらないよ 今年の村会で五作さんの家は納税免除といふ事になつたんだよ だから税金の事なら心配いらなんだよ”
16. “納税免除で御座いますか”
17. “そうだよ”
18. “そりや困りますだ収入役さん そりぢや農は村からのけ者扱ひだ 農の代になつてそんな事をされちや ご先祖に対して申訳がたちません”
19. “でもこれは村会で決まつた事だから—”
20. “いくら村会で決まつたからつて一体誰がそんな事を決めた”

- 2 1. “まあ、五作さんこの度のことは、これで良いぢやないか”
2 2. “一寸も良くねえだ”
2 3. “どうか税金だけは納めさせて下さい、村長さんお願いしますだ”
2 4. “今まで村の衆には一方ならぬお世話になつてゐますだ”

【15頁】

- 2 5. “儂あ、そんな御世話になりつばなしになつてゐては気がすまねえだ”
2 6. “どうか税金だけは収めさせて下さい、村長さんお願いしますだ、お願いしますだ”
2 7. “五作さん、まあ、そこへお座りなさい、五作さんあなたの殊勝な心がけには頭が下ります”
2 8. “然し五作さん、さつきも聞かれた通り本年の所は村会で決まつてしまつた事だから—”
2 9. “その所を何うにかなりませんか”
3 0. “何べんもいふやうに、村会で決めたのだから、今年だけはあきらめてもらひたい”
3 1. “へい—ご存知の通り儂は貧乏人で御座いますが人としてしなければならぬ事はしたいと思つて居ります、八十近い今日まで永らくお世話になつた村の為、何一つ為す事も出来ずに嫁や孫に面目がたちません”
3 2. “村長さんそれでは、こゝに持つて来ましたお金を村の為に何かの足しにお使ひ下さい、お願い致します”
3 3. “有難う御座います、五作さん私は村全体を代表して厚く御礼申します”
3 4. “近頃は実に税金を厭い生活に困らぬ者までが滞納し勝ちなのに五作さん、あなたの美しい御心には全く感じ入りました、あなたの様な人が居てくれるといふだけで此の村に取つては大きな名誉です”

【16頁】

- 3 5. “税金の方はあなたの気持ちを汲んできつと来年から収めて頂く様にしますでは、此のお金は遠慮なく頂いて置きます”
3 6. “有難う御座いますだ、有難う御座いますだ”
3 7. “今年の秋も豊作だつた”
3 8. “そしてまた、楽しいお祭が来た”
3 9. “おぢいちゃん”
4 0. “危ない、何処もけがはなかつたか”
4 1. “皆とお宮に行くのか”
4 2. “民江ちゃん、お宮へ行かないのかい”

- 4 3. “行かふよ 民江ちゃん”
4 4. “さあ 一緒にお宮に行つて神様に良く御礼をするんだよ”
4 5. “はい”
4 6. “さあ 行つといで”

【17頁】

- 4 7. 五作ちいさん

をはり

終

【データ採録者：藤井靖幸】【校正：森田健嗣】